

1 **トラック1「催淫の粘液ぶっかけ」**
2 「聖結晶姫ミツキ。催淫触手の罠」
3 「やっと見つけたわ、レギオンの改造人間！」
4 「まさか、地下下水道に潜んでいたなんて……道理で中々見つからないわけだ」
5 「でも、この私が来たからにはあなたの悪事もこれまでよ！」
6 （酷いものね……これは改造人間というよりも、不気味な化け物。巨大なミミズを球
7 状に編み込んだような触手の塊だわ）
8 （欲望以外の感情を失い、人々を苦しめる忌まわしき存在……断じて野放しにはで
9 きないわ！）
10 「そう……どうやら私をただのか弱い女の子だと思っているのね」
11 「でも残念。あなたの思い通りにはそう簡単に」
12 「キャッ!?」
13 （危なかったわ。あの触手、先端から特殊な粘液を噴射できるのね。注意しないと）
14 「くっ、また！」
15 （この粘液、意外に射程距離があるのね……これじゃ、近づくことができないわ）
16 （やはり、あいつを倒すには私に宿る聖結晶の力を解放し、変身するしかないわね）
17 「いくわよ！　お願い聖結晶、私に力を貸して……チェンジ・ストラクチャー！」
18 「変身完了！　聖結晶姫ミツキ、ここに降臨！」
19 「さあ、観念しなさい！　変身した私の前ではあなたなんて敵じゃないわ！」
20 「……なんて言っても、言葉は通じないのよね。だから、力の差を直接教えてあげ
21 る！」
22 「ガントレット！　モードセイバー！」
23 「悪を滅する光の刃を受けてみなさい！　たあああああああ！」
24 「粘液で反撃しても無駄よ！　変身した私には、そんなもの当たらないわ！　やああ
25 ああっ！」
26 （くっ、浅かった……表面の粘液でブレードを滑らされてしまったわ）
27 「ふん！　だから、そんな攻撃通用しないと言っているでしょ！」
28 「今度は外さないわ、観念しなさい！　やあああああああ！」
29 「よし！　これでトドメよ」
30 「ひやああ！　えっ？　あっ、な、なに？」
31 （し、しまった！　敵は1体だけじゃなかったというの……2, 3, 4, ご、5体も！）
32 （しかも……囲まれてしまっているわ。最悪ね）
33 （敵のアジトを見つけた気になっていたけれど、どうやら、私は誘い込まれていたよう
34 ね）
35 （狭い地下下水道で、この数を同時に相手するのは辛いわ）
36 （なんとかしてこの包囲網から脱出しないと……大丈夫、落ち着くのよ）

1 (聖結晶は私の心に反応してエネルギーを生み出す結晶体。どんな時でも諦めない
2 心が力になるのだから)
3 「くっ、そう簡単に逃がしてくれないってことかしら」
4 「だけど、もう同じ手は通用しないわよ。不意打ちでなければ、こんな攻撃」
5 「ふあああああっつ！」
6 (ど、どうなっているの!?)
7 (さっき粘液をかけられたところが急にムズムズして……熱く、なっているわ)
8 「っう!? えっ? ひやあああああ！」
9 (熱いだけじゃないわ……肌がすごく敏感になってる)
10 (いつもならボディスーツの密着なんて気にならないのに……今はスベスベの生地
11 が擦れたくらいで……か、感じちゃうわ)
12 (な、なによ、これ……まるで全身を、あんっ!? 撫でられてるみたい)
13 (いけない! これ以上、この粘液を浴びるわけにはいかないわ)
14 「くっ……はあはあ……ふあっ!? はあー、はあー、ううつ、くっ……」
15 (そんな……身体がドンドン火照って、よけると酷くなってく……ふあっああ!)
16 (そうか……この粘液は媚薬なんだわ。それも、スーツの防御機能を上回るほど強
17 力な……)
18 「こ、この、卑怯よ! あんっ!? こんな、女性を辱めるような責め方するなんて……」
19 「あっ、し、しまっ!? きゃあああああああああああ！」
20 (また、粘液が……それも胸にかけられるなんて)
21 「はああー、はあー、うう……っ、うつあ、ああああ〜」
22 (そんな、胸はただでさえ感じやすいのに……媚薬が染みこんで、もっと敏感になっ
23 てしまったわ)
24 (ああっ……スーツの締め付けだけで、おっぱいが気持ち良くなっちゃってる)
25 (乳首もたって、痺れちゃって……これじゃ、敵の攻撃をかわせないわ)
26 「し、しまっ!? あっくうううう」
27 「触手が手足に絡みついて……早く、振りほどかないと」
28 「きゃああああああああああああ! や、やめなさい! そんなものを、かけるなあああ〜
29 〜! 」
30 「感じちゃううう! 力が抜けてえ、触手が振りほどけないiiiiii! 」
31 (まずいわ! 胸だけじゃない……身体中に粘液をかけられて……)
32 (これじゃ、敏感になりすぎて敵の思うつぼだわ……)
33 (完全に動けなくなる前に、反撃しないと……聖結晶に意識を集中してエネルギー
34 を高めるのよ)
35 「くっ、ううう! 負けない……私はこのくらいで負けたりなんて……しないわ! 」
36 「よし! このエネルギーがあれば……ガントレット! モード」

「きゃあああああああ！ うっ、あああ……し、しまった……せ、聖結晶を狙われ
てしまうなんて……」
（聖結晶は私の力の源。ここを攻撃されると、体がバラバラになったみたいだわ。エネ
ルギーも生み出せなくなってしまう）
「いぎゅっあああ！ かはっ！ うっああ、あああ……はあ、はあ……」
（また触手で直接聖結晶を攻撃してきた……まずい、聖結晶が私の弱点だと、バレ
てしまったわ）
「ぎゃあああああああ！ うう、あああ……や、やめなさい……」
「うぎゃああああ！ あっあああ！ きゃあああああ！ あう、あうっ……やめな、ひ
ぎゃあああああああああ！」
「ひぎいいぐうううう！ や、やめてえええ！ そんなに殴られたら、聖結晶が壊れて
しまうわ」
「いやあああああ！ やめて！ 聖結晶をこれ以上、攻撃しないでえええ！」
「ンンンツツツうううう！ あっうがあああ……うっ、あああ～～」
「うう……あっ……お願い……やめ、て……」

トラック2「恥辱の触手拘束愛撫」

「はああ——、はああ——……うくうう、く……くっ、あああ……」
（やっと、聖結晶への攻撃が止まったわ。でも、ダメージが大きすぎて力が入らな
い……）
（触手で手足を拘束されていなかったら、立っていられないなんて……情けないわ）
「くっ、今度は私になにをするつもりなのよ」
「そんな手足だけじゃなくて、胸にまで触手が絡みついて!？」
「こ、こいつ……私の胸から離れなさい！ あまり調子に乗っていると、ひやあああ
ん！」
「こ、この……やめろって、言って……あっ、アアアンツ！」
（だ、ダメ……聖結晶の出力が下がって、媚薬がさらに効いてる……力が全然入
らないわ）
（せめて、この媚薬だけでもなんとかできれば、まだ活路はあるわ）
（賭けになってしまうけれど、残りのエネルギーを使えば媚薬を中和できるはずよ。だ
から、今は恥ずかしいのに耐えて、中和に集中しないと）
「くふう、うう、アッ！ 我慢……我慢よ、私は快樂なんかに屈したりしな、へっ!？」
「ひやあ、ふあああああああああ！」
（この触手のヌルヌル、想像以上に厄介だわ。撫でられただけでゾクゾクして、おっぱ
いが気持ち良くなっちゃう）
（しかも、知能が低いくせに、なんて繊細なさわり方をしてくるの。こいつ女性のよろこ

1 ばせ方を熟知しているわ)
2 「ふあああああ！ はあ、はあ、胸え、だめえ……こんなの卑怯よおおお！」
3 (ギュー、ギューって根元から絞り上げられる感じが、乱暴にされているのに気持ちい
4 いなんて……)
5 (こんなに胸が火照っちゃたら、乳首が立っちゃうわ。そしたらもっと、敏感になっちゃ
6 うのに……)
7 「ひっ、くうううう！ だから、それダメだって……」
8 「はひいいい！ 乳首が……感じちゃって、乳首が立っちゃうううう」
9 (胸の先が痛いくらい硬くなってる……こんな状態の乳首をいじられたら、どうなって
10 しまうの？ 乳首は弱いのに、我慢なんて……)
11 「あっ、ダメ！ そんな先っぽまで……乳首はいじらな!? ひやあああああああ！」
12 (やっぱり、乳首にも触手、きちゃたわ。しかも吸盤みたいに吸い付いてきてる)
13 (生温かくて、唇で包み込まれているみたい……こんなので吸われちゃったら、感じ
14 ちゃうに決まってるじゃない！)
15 「アンツ！ アツ、アツ、吸いながら同時に揉んでくるの!? ひぎいいい！ ふあああああ
16 あ！」
17 (反則！ それは反則よ！ ギューギュー絞られる圧迫感と吸い上げられる気持ち良
18 さが混ざり合って、胸がトロトロに溶けちゃいそう！)
19 「んんっあああ！ 吸うの激しいいいい！ そんなに吸ったっておっぱいなんて出ない
20 わよ！ いい加減にしなさいよおおお～～！」
21 (この触手、どれだけ責め手を持っているの!? 温かいだけじゃなくて、噛みみたいに硬
22 い部分で噛むこともできるなんて……)
23 (ああっ！ 今度は舐められているみたいな感触がきたわ……くうう、媚薬の中和
24 が遅くなっちゃう……)
25 「ひくうううう！ ち、乳首は、もう許してええ……」
26 (おっぱい……おかしくなっちゃう……気持ちいいの覚えさせられちゃう……)
27 (あっ!? べ、別の触手がお尻に貼り付いて……やっぱり、ダメ。媚薬を浴びちゃって
28 るからお尻も胸と同じくらい感じてしまうわ)
29 「ううう、くううう！ お、お尻、撫でないでよ！ ヌルヌルして気持ち悪いのよ……
30 ふうああっ！ はふううん！」
31 (そんな!? 触手がスーツの中に潜り込もうとしている……撫でるだけじゃなくて、お
32 尻の穴に触手が入ろうとしているの!?)
33 (まずい……聖結晶の力を中和に回しているから、スーツが脆くなってしまうって
34 わ！ お尻に触手、いれられちゃう！)
35 「ふーふーふー」
36 「させない……そんなこと絶対。これ以上犯されてなるものですか！」

1 **トラック3「屈辱の膣内射精絶頂」**

2 「くひいいい！ ふあああ、あああああ！」

3 「胸も、お尻も、おかしくなるううう～～、はへえ、うつああああ～～」

4 （媚薬の中和はまだ終わらないの？ このままじゃ、中和よりも先に私の方が限界を
5 むかえてしまうわ……………お願い、聖結晶……………早く、中和を……………）

6 （あっ、ショーツが破れて!? エネルギー不足でコスチュームも限界なんだわ）

7 （えっ!? ま、待って！ まさかアソコにまで触手を入れる気なの？ そんなことまでさ
8 れたら、私もう耐えられないわ）

9 「いや！ やめなさい！ そこは女の子の1番大切な場所なのよ。そんな汚い触手を
10 入れて良い場所じゃないんだから！」

11 「くひゃあああああ！ ダメだって言ってるでしょ！ 先っぽ押しつけて、グリグリしな
12 いで。それ以上力を込められたら、は、入っちゃう！」

13 （ダメよ、ミツキ！ 弱気になっちゃ。これ以上心の力が弱くなったら、聖結晶の力まで
14 弱くなっちゃう）

15 （聖結晶の力は私の心が影響するんですもの。気を強くもたないと負けてしまうわ）

16 「そうよ、負けない……………こんなピンチで私は、ひいいいい!?!」

17 「い、いやあああああああああ！ しょ、触手が入って……………私のアソコに入っちゃってる
18 うううう！」

19 （いやあ、入っちゃってる……………しかも、これ、他の触手よりすごく太くて硬いわ）

20 （こんなたくましいのでアソコ犯されちゃったら、わたし、どうなってしまうの?）

21 「ガッ！ うっ、あああ……………突き上げ、すごい……………奥にガンガン当たって、衝撃がお
22 腹全部に響いてくるうううう！」

23 （身体が火照りきっちゃって、乱暴にされているのに感じちゃう……………奥が、子宮が、
24 潰れてキュンキュンしちゃわ）

25 （こんなの嫌なのに……………屈辱なのに……………気持ちいいの止まらないのおおお）

26 「ひぎゅううう、くっはああああ、ああああん！ う、ウソでしょ!?!」

27 「おっぱいイジメられながらアソコ突かれると、もっと感じちゃうううう！」

28 「両方の快感が混ざり合ってドンドンおかしくなっちゃうわああ！」

29 （ズルいわ、こんな弱いところばかり同時に責めて……………どっちを我慢すればいいの
30 かわからなくなる）

31 （ううん……………もう、どうやって耐えていたのか、思い出せなくなってきちゃてる）

32 「あひいいいいいいい！ そ、それ本当にだめええええ！」

33 「お尻とアソコ同時に突き上げないで！ お腹の中が潰されて、苦しいのに、んっああ
34 ああ！ 子宮で感じちゃうのおおおお！」

35 （こんなに敏感になった身体じゃ、アソコ責められるだけでも我慢できないのに……………）

36 （おっぱいとお尻まで一緒にされたら、わたし、何もできなくなっちゃううう）

1 (っゃん！ くひひひひひ！ 触手のデコボコが粘膜引っ張ってくるう！)
2 (ジクジクしたの消えてくれなくて、もっと欲しいってピクピクしちゃってるわ！)
3 (身体が触手に犯されるよろこびを覚えちゃう……わたし、触手奴隷にされちゃうう
4 う！)
5 「かひひひひ、ああん！ む、むねえええ！ はひひひひ、おひりひひひ」
6 「ふあああああああ！ あしよこもおおお、全部うう、快楽に負けちゃううう」
7 (身体が快楽に流されちゃって、聖結晶の力弱くなっちゃってる……中和が全然間
8 に合わないわ)
9 「ひひひひっ、ひひひひ！ 太ひひひひ、硬ひひひひ！ アッ、アッ、アッ、アッ、アンツ！」
10 (そんなあ、触手がさらに大きくなって。お腹の中、もうパンパンなのに、これ以上刺
11 激強くされたら……もう……もう、わたし……っううううう！)
12 (だめええええ！ もう、耐えられない！ 負けたくないのに、屈服したくないのに……
13 わたし、触手に……触手なんかにはひひひひ)
14 「イ、イクッ……もうイク！ エッチな穴、ズボズボされて、わたし、イっちゃううう
15 うう！」
16 「ひぐううう！ 潮吹いちゃってる……イクの気持ちよすぎて、ブシャブシャ出ちゃう
17 うう！」
18 「これダメなのお！ 頭の中真っ白になって、何も考えられなくなる。快楽に支配され
19 ちゃうのおおおお！」
20 「い、いやっ……いやあああああつ！ 出されてるうう、粘液、中に出されちゃってるう
21 う！」
22 (この媚薬のせいでメロメロになっちゃったのに……中出しまでされたら耐えられる
23 わけない)
24 (それに私、イッた直後が1番敏感なのに!?)
25 「はっひひひひひ！ イくううう！ ドロドロ粘液注がれて、またイっちゃうううう！」
26 「も、もう、出さないでえ……子宮まで蕩けちゃって、イクの止まらなくなっちゃう
27 わ……ひぐうううう！ だめえええ、またイクううううう！」
28 (身体の痙攣が止まらないわ……さっきからイキっぱなしで、本当におかしくな
29 る……)
30 「お、お願い……許してえ……これ以上はもう、うぷうううう！」
31 「おええええ、むぐううううう！ うぷっ、もごおおおおおおお！」
32 (触手が口の中にまで！ いやっ、舌を絡めないで……)
33 (イキまくりで何をされても感じちゃうのに、キスなんかされたらメロメロになってしま
34 うわ)
35 「はむううう！ むぐぐっ、んちゅううう、へっあああああああ！」
36 (お口しごかれるの、しゅごひひひ！ キスでもイっちゃう……触手キスでイカされち

1 やってる……わたし、なんて惨めなの……)
2 (でも、気持ちいいのに逆らえない……媚薬で完全に身体がおかしくなっちゃった
3 わ……)

4 「もごおおおおおお！ もがあああ、むうううう！」
5 (粘液、流れ込んでくる！ 苦くて、ドロドロしたの、飲まされちゃってるうう～～！)

6 (媚薬はもう嫌なのに……だめえ、やっぱり感じちゃうわ……)

7 (もう、イクの止まらない……アクメしたまま、終わらないのおおお！)

8 「うぷううう！ おぼおおおお！ もごおおおお！」

9 (頭が真っ白になって……なにも考えられないわ……)

10 (聖結晶をコントロールできない……もう、中和……できない……)

11 「おえっ！ うえええええ！ 媚薬、もう……いやああ～～」

12 「や、やめれええ……おれかい、らかああ～～……あうんっああああ！」

14 **トラック4「絶望の強制変身解除」**

15 「うつぶう……はへええ、うつあ……ぜえ、ぜえ、ぜえ……」

16 (私はいったいどれだけイカされたの……ダメだわ、全然思い出せない)

17 (そもそも、ずっと犯され続けて、もう時間の感覚が麻痺してる)

18 (体が鉛のように重い……戦うどころか、指1本動かすのがやっとだわ)

19 「うつ……あああ……おえっ！ ケホッ、ケホッ！ ううう……」

20 (拘束が解けたけれど……ダメ、やっぱり立てない……)

21 (こいつらも、わたしがもう動けないとわかっていて、拘束を解いたんだわ)

22 (惨めすぎるわ……でも、この格好じゃ言い訳もできない……あんなにイカされて、
23 無様よね……)

24 (私のことを嘲り笑っているのかしら……)

25 (そうよね……散々痴態を晒した私なんて、触手に屈服した雌奴隷くらいにしか考え
26 られないわよね)

27 (ううう……私はもう戦えないというのに、こいつら、まだ何かするつもりなの？)

28 (触手の先端から針のようなものが飛び出したわ……ま、まさかあの針で私を!?)

29 「ぎゃあああああああ！ あ、足があああ！ 針が太股に刺さって、い、痛いいい
30 い！」

31 (エネルギーが低下して、スーツの防御力がゼロになってしまったわ)

32 「へげええええ！ あっ——あっ——あっ——！ 針が、また……もうやめ、きゃあ
33 あああああ！」

34 (太股だけじゃない。腕にもお腹にも針が刺さって……私は串刺しにされるの？)

35 (今度はなに？ 針を刺した触手が、ごきゅ、ごきゅ、って動いてる。まるでなにかを吸
36 い上げているみたい)

1 「あっ、あっ、あっ、うう……えっ？ ちからが、ぬけて……ま、まさか!？」
2 「くひいいいい！ やっぱり、そうだわ！ こいつら、私のエネルギーを吸い上げて
3 る……聖結晶の力が、無くなっていくうう～～」
4 「やめてええ、お願い！ もう、私のエネルギーは尽きかけているの。なのに、エナジ
5 ードレインなんてされたら、空っぽになってしまうわ……」
6 「苦しいいいいい！ え、エネルギーがああああ！ あっ、うう、いっぺんに吸わない
7 でええ～～」
8 「んぎいいいい！ ひぎいいい！ ハア、ハア、ハア……あううう～～」
9 (えっ？ あっ！ そ、そんな……アーマーが消えてしまったわ。エネルギーを失い
10 すぎて変身が解け始めてる)
11 「お願い！ お願いだから、もうやめてえええ！ これ以上吸われたら、本当にエネル
12 ギーがなくなってしまう……変身が解けてしまうわ」
13 「らめえ、らめえええ！ エネルギー吸うの、もう、らめええええ！」
14 (エネルギーを失った分だけ、抵抗力が落ちてく……エナジードレインを止められな
15 いわ)
16 (リボンも消えてしまったわ……髪がほどけて、聖結晶のトレードマークであるポニ
17 ーテールまで崩れちゃった)
18 (わたし、負けるの？ こんな触手の化け物に屈服させられてしまうの？ いや……
19 負けたくない……負けたくないわ)
20 「ふああああ～、いやああ～……負けたくない、負けたくない、負けたくない、負
21 けたく」
22 「ふぎやあああああああああああああ！ そんなあああああ！」
23 「やべでええええ！ 聖結晶を攻撃しないで！ そんなごどざれだらあああ、もう、わだじ
24 いいいいい！」
25 「だめえええええ！ もう、わだじ、だめえええええ！ へ、変身、解けちゃううううう！ は
26 ぎいいいいいいいいい！」
27 「……あっ、うう……ブロンドが変身前の黒髪に戻ってしまった……スーツもな
28 くなって……変身が、完全に解けてしまったわ……」
29 (私は……聖結晶姫ミツキは負けたのね。もう、私の勝ち目は……ゼロだわ)
30 (針が抜かれた……そうよね、もう私はエネルギーの搾りカスも同然。こいつらにと
31 って、脅威にはなりえないわ)
32 「で、でも……それでも私は……最後まで、絶対に諦めない！」
33 「ハア、ハア、ハア……何度倒れても、立ち上がるわ。不屈の闘志……これが私
34 の……聖結晶姫ミツキの最後の武器なのだから！」
35 「はあー、はあー、うくうう！」
36 (体が重い……膝が震える……なんとか立てたけど、これが限界だわ。でも、これ

